

更新日時:2018/02/27 19:22:52

科目分類		単位数	2
時間割コード	NSA0015	履修年次	1・2年
授業科目・題目	実践教育プロジェクトⅢ	開講学期	通年
授業科目・題目 (英語)		曜日・時限	他(0限)
科目コード	NSA0015	選択／必修	選択
主担当教員	小俣 光司	履修資格	なし

## 主担当教員一覧

授業形態	実験・実習
授業の目的	<p>昨今、企業等における理工系人材として、課題解決能力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、プレゼン能力、リーダーシップの素養を持った人材が求められています。これらの能力の習得には実際の課題に取り組む中で養成するPBL(Problem Based Learning)型教育が注目されています。</p> <p>そこで、本授業では、高度理工系人材育成を目的とし、企業等の求める人材能力の基礎的素養を修得させるため、地域企業等との連携により実際の課題に取り組む、解決策を提案することを行ってまいります。その取り組みの中で前述のさまざまな能力のスキルアップを図ることおよび就業力アップを図ることを狙っています。</p>
科目の達成目標 (達成度)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題の意義を理解し、説明できる。</li> <li>2. 課題の解決に必要な文献等を調査できる。</li> <li>3. 課題の解決に必要な知識と方法論を修得する。</li> <li>4. 課題の解決に役立つコミュニケーション能力を修得する。</li> <li>5. 検討内容を平易かつ簡潔な文章で要領良くまとめることができる。</li> <li>6. 他者に対して分かりやすいプレゼンテーションができる。</li> </ol>
授業の内容 および方法	<p>前期:2回分をガイダンス(実習先の決定を含む)、課題の設定、課題解決の方法論の説明に充てます。11回分を実習先での課題解決のための事前学習に充て、2回分をレポート指導に充てます。</p> <p>後期:2回分を実習先でのガイダンス(安全教育を含む)、課題の設定、課題解決の方法論の説明に充てます。10回分を実習先での課題解決のための調査、学習、検討、実験、中間発表会等に充て、2回分をレポート指導に充て、最後の1回分は学内での発表会とします。</p>
授業の進め方	<p>文献等の調査、自主的学習、ディスカッション、実験等を含む反省的 反復作業により課題解決の方法を見つけます。 前半は主に学内で事前学習を行い、後半に企業等に赴いて、専門家の指導の下で自主的に課題解決に取り組みます。</p>
授業キーワード	PBL型授業、課題解決、プレゼンテーション、マネジメント、地域課題
テキスト	指導教員の指示に従うこと。
参考文献	指導教員の指示に従うこと。
その他授業資料等	資料を適宜配布します。
成績評価の方法 およびその基準	単位の認定基準は、次のとおりとします。 レポート50点、プレゼンテーション50点の100点満点で評価し、60点以上を合格とします。
履修上の指導	全国の企業等において個人単位で実施するPBL教育科目です。
オフィスアワー	教員の指示に従うこと。
その他	

## 担当教員一覧

教員	所属
三瓶 良和	地球物質システム学
李 樹庭	制御システム工学
吉田 和信	制御システム工学
葉 文昌	電子デバイス工学
大庭 卓也	物質構造
小俣 光司	物質設計
藤田 恭久	電子デバイス工学
平川 正人	計算機科学

[前の画面へ戻る](#)